

項目	書名 <h1 style="text-align: center;">新しい道徳</h1> <p style="text-align: right;">2 東 書</p>
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に学習に取り組めるよう各教材に、学習のテーマを明示している。 ○オリエンテーションで学習手順、各教材で学習テーマや考えるポイントを明示することで、児童が問題意識をもって取り組み自己を見つめられるようにしている。 ○「学習のふり返し」や「学習活動のページ」の掲載により、児童が自らの成長を実感したり、学んだことを日常生活で実践したりできるようにしている。
特色	<p style="text-align: center;">内 容</p> <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○喫緊の課題である「いじめ問題」を、全学年で重要項目として取り上げ、複数の教材を組み合わせたユニット形式で効果的に配置している。 ○安全・防災教育や情報モラル、食育、国際理解・平和など子供たちを取り巻く今日的な課題に教材を取り上げている。特に情報モラルについては、1年生から6年生まで発達の段階に即した系統的な視点で、題材を扱っている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の生活実態に合わせ、各教科等との関連を図った指導内容と指導時期を考慮した教材配列をしている。低学年では入学前や入学後の生活を紹介し幼児教育との関連を図り、高学年では中学生に向かい、自己の生き方に関わる教材を配置している。 ○巻頭のオリエンテーションで学習手順を示し、児童が問題意識をもって取り組み、自己を見つめられるようにしている。また、各教材の冒頭と末尾に考えるポイントを示し、学習意欲と見通しをもった主体的な学習を促している。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活に生かすための問題解決的な学習「問題を見つけて考える」があり、学習の手引きとして「とびらページ・考えるポイント・考えるステップ」が示されている。また「学習のふり返し」で書くことを通して自分の成長を見つめることができる。 ○「読み物教材」と「学習活動ページ」〔出会う・ふれ合う／つながる・広がる〕で構成している。読みもの教材を通して考えた道徳的価値を、より深めるための学習ページを、効果的に配置している。 <p style="text-align: center;">資 料</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年間行事や児童の生活実態、体験活動等の指導内容や指導時期を考慮した教材配置をしている。また、学習活動のページ〔出会う・ふれ合う／つながる・広がる〕では、各教科等での道徳性の育成につながる教材や学習活動を取り上げている。 ○教材への興味や理解が深まるよう、挿し絵や写真を大きく掲載している。絵には必要以上に色を多用することを控えている。 <p style="text-align: center;">表記・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材ごとに学習指導要領の四つの視点をマークで示している。巻頭では「これから一年間で学ぶこと」として四つの視点と内容項目ごとに分類して示している。 ○1年生は分かち書き、文節改行。カタカナにルビ付加、数字についてのみ漢字を用いて初出にルビ付加。漢字は前学年までの配当漢字を使用。脚注解説あり。
総括	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーションや各教材で学習手順と考えるポイントを明示し、見通しをもち主体的に取り組む学習を促している。全学年で学習活動のページを複数掲載しており、特に「出会う・ふれ合う」では、コミュニケーション活動を通して道徳的価値について考えることができるようにしている。「学習のふり返し」「かがやくじぶんに」では児童が自分の成長を見つめ実感する手立ての一つとすることができる。また、アニメのキャラクターや写真や絵を大きく掲載した教材がある。

<p>項目</p>	<p>書名 かがやけ みらい 小学校 道徳 読みもの かがやけ みらい 小学校 道徳 活動</p> <p style="text-align: right;">11 学 図</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり</p>	<p>○「読みもの」と「活動」の2分冊で構成している。</p> <p>○「読みもの」は巻頭にオリエンテーション、各教材冒頭に主題を掲載し、児童が問題意識をもって主体的に取り組むことができるようにしている。</p> <p>○「活動」は内容項目ごとに構成されており、自らを振り返り見つめ直す発問を入れることで、道徳的価値に迫り今後に生かす態度を養うことができる。</p>
<p>特 色</p>	<p>内 容</p> <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <p>○「生命の尊さ」を全学年の重点項目とし、教材に加えコラムでも扱っている。「いじめ問題」は特に「公正、公平、社会正義」の内容項目において教材を配置するとともに、コラムにおいても提示し正対して考えることができるようにしている。</p> <p>○「情報モラル」は、全学年「節度・節制」等の内容項目にからめ、児童発達段階に合わせ、具体的な生活場面に即した教材で取り上げている。</p> <p><発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫></p> <p>○「読みもの」と「活動」の2部構成となっている。「読みもの」の冒頭に示す「主題」でねらいを確かめ、「活動」の「発問」で考えを深める活動を通して、道徳的価値に迫るとともに、実践につなげることができるようにしている。</p> <p>○「活動」に、学習の流れを捉え学びの過程や自らの成長を振り返るページや日々の記録を記入するページ、実生活に照らし合わせて考え記述するページを設けている。「活動」を活用し、学校での学習を家庭や地域で共有しやすくなる。</p> <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <p>○「活動」は、内項項目ごとの見開き構成になっており、同じ内容項目の学習をすぐに思い出したり、自分の成長を振り返ったりすることができる。また、項目ごとに特設ページがあり、道徳的価値を見つけ、生活に生かし広げることができる。</p> <p>○「活動」では、「考えよう」(中心発問)「みつめよう」(後段の発問)にマークを付け、学習活動を明示している。さらに「アクティブ」マークを重ねて提示し、問題解決的な学習や体験的な学習など、多様な道徳学習を促す構成にしている。</p> <p>資 料</p> <p>○教材に加え、「読みもの」では全学年6本のコラム、「活動」でも複数のコラムを配置している。特に多様な人々が共生する社会をめざし、ユニバーサルデザインの観点を紹介するコラムを全学年「活動」の中に掲載している。</p> <p>○2学年以上の全学年において、スポーツ界で活躍する人物や偉人を題材とした、生きる喜びや勇気を与え、未来へのモチベーションを高める教材を掲載している。</p> <p>表記・表現</p> <p>○教材ごとに学習指導要領四つの視点をマークで示している。目次は四つの視点の内容を色分けしており、索引は四つの視点と内容項目ごとに分類して示している。</p> <p>○1年生は分かち書き、文節改行。学年配当漢字はルビ付加、配当外漢字はその都度ルビ付加。難解な言葉や必要な情報は、教材ごと最後に解説がある。</p>
<p>総 括</p>	<p>○「読みもの」と「活動」の2分冊で構成している。「活動」は内容項目ごとに配列している。「読みもの」の「主題」でねらいを確かめ、「活動」の「発問」で考えを深める活動、さらに「特設ページ」で生活に生かし広げる活動を通して、道徳的価値に迫るとともに実践につなげることができる。また、問題解決的な学習、体験的な学習など多様な道徳学習を促す構成になっている。さらに、スポーツやアニメを基にした教材、多様な画風のイラストや写真を大きく掲載している。</p>

項目	書名 小学道徳 はばたこう明日へ 17 教出
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	<p>○内容項目ごとに導入時の投げ掛けを設け、学習のねらいを明確に把握させている。</p> <p>○巻頭に自分のことを記述させ問題意識をもち自己を見つめられるようにしている。巻末に「ふり返り」を設け心の変容を見取りよりよく生きる意欲をもたせている。</p> <p>○道徳的価値を実体験を通して理解し、行動化を図るため、モラルスキルトレーニングを全学年で取り入れている。</p>
特色	<p>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞</p> <p>○「いじめをなくす(黄)」「情報モラル(青)」「生命尊重(赤)」の3点には特に重きを置き、該当する教材にはそれぞれ特に大切なことのマークをつけてわかりやすく示している。</p> <p>○全学年にアクティビティやモラルスキルトレーニングを取り入れ、多様な体験的な学習を通して、道徳的な習慣や行動が身に付けられるようにしている。</p> <p>＜発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫＞</p> <p>○巻頭には道徳開きのページを設け、現在の自分を知り一年間の目標を立てる。巻末には振り返りのページを設け、一番心に残ったことを記入することで心の成長を見取るとともに、次学年へと道徳の学習を繋ぐことができるようになっている。</p> <p>○内容項目ごとに導入(主題への誘い)を設けている。教材を読む前に、どのような価値について学習するのか、何が問題になっているのかなどを把握できるようにし問題解決的な学習が展開できるようにしている。</p> <p>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞</p> <p>○教材ごとに授業の流れを想定した「学びの手引き」を設けている。教材本文につながる問い、道徳的価値そのものへの問い、今後の行動への示唆など、道徳的価値の理解を深めることができる設問が示されている。</p> <p>○全学年複数の教材において「ジャンプ」を設け、役割演技をすることによって道徳的価値の理解を深めることを目指している。児童の予想される回答も記載し、話し合いの手掛かりとしている。</p>
資料	<p>○低学年では「礼儀やマナーの確実な定着を目指した教材」中学年では「生活場면을題材とした教材」高学年では「実在した(する)人から学ぶ教材」の充実を図っている。先人の伝記やスポーツ選手を扱った教材も複数掲載されている。</p> <p>○教材は、内容項目ごとにまとめてある。また、児童の発達の段階を考慮したり、小学校の年間行事と関連させて指導できたりするよう配列している。</p>
表記・表現	<p>○内容項目ごとに学習指導要領の四つの視点をマークで示している。目次は四つの視点を色分けしている。索引は四つの視点と内容項目ごとに分類して示している。</p> <p>○1年生は分かち書き、文節改行。カタカナ、漢字は教材ごと初出でルビ付加。当該学年以上の漢字は教材ごと初出にルビ付加。難解な言語や必要な情報は脚注解説。</p>
総括	<p>○教材を内容項目ごとに配列している。内容項目ごとに導入時の投げ掛けを設け、学習のねらいを明確に把握させることで、問題解決的な学習を展開できるようにしている。役割演技を行う「ジャンプ」や実体験を通して考える「モラルスキルトレーニング」を全学年で取り入れ、道徳的価値の理解を深めるとともに、道徳的な習慣や行動が身に付けられるようにしている。また、偉人やスポーツ選手を扱った教材、挿し絵のビジュアル面を充実した教材がある。</p>

<p>書名 項目</p>	<p>道徳 きみが いちばん ひかるとき 38 光 村</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり</p>	<p>○主体的な学びができるよう、めあてを明示し課題を意識させている。 ○各教材「考えよう」で3段階の発問構成を提示している。また発達段階と教材に合わせ登場人物への自我関与、問題解決的な学習や体験的な学習を織り交ぜている。 ○「つなげよう」で道徳の学びを日常生活の行動に生かすよう提示している。また「学びの記録」を年間数回設け、自分の成長を実感でき自尊心を育むようにしている。</p>
<p>特 色</p>	<p>内 容</p> <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○「いじめ問題」と「情報モラル」は全学年を通して取り入れている。特に、様々な内容項目から結び付く教材とコラムを合わせて「ユニット」として設定し、多面的・多角的、系統的に深く考えることができるようにしている。 ○全学年を通して「生命尊重」に重点を置き、「生命の尊さ」に関する教材を複数掲載している。特に巻頭詩及び生命誌研究者の書き下ろし教材を掲載している。</p> <p><発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫> ○1時間の授業をイメージしやすい教材構成になっている。冒頭でキャラクターが道徳的価値を明らかにする「問いかけ」→学びのめあてを自覚し主体的に考える発問を示す「考えよう」→学びを広げ深める「つなげよう」という構成になっている。 ○教材とコラムを組み合わせた「ユニット」を全学年、複数箇所設定し、物事を多面的・多角的に考えることや自己の生き方についての考えを深めることができるようにしている。</p> <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○「考えよう」では、発問を①教材について共通理解に立つ問い②道徳的価値に迫る問い③問題を解決するためにどうしたらよいかを考える問いの構成としている。これらの問いについて児童が主体的に考えられるよう言語活動を位置付けている。 ○学校生活の実態と児童の一年の成長を考慮して、一年間を四つのまとまりに分けている。まとまりの区切り目には、「学びの記録」を設け、毎時間の学びを記録するとともに、自分の学びの変化や成長を振り返ることができるよう構成されている。</p>
	<p>資 料</p> <p>○「なんだろう なんだろう」「あなたへのメッセージ」「私たちの学ぶ世界」「よりよい人間関係を築くための技能」「調べてみよう」等、特設ページや巻末付録を設け、授業時間以外でも「考えること」を楽しむことができるようにしている。 ○1時間1時間の学びが有機的に結びつくよう、内容項目間の関連を考慮し、指導内容の順序を意識した配列を工夫している。</p>
	<p>表記・表現</p> <p>○教材ごとに学習指導要領の四つの視点をマークで示し、学習のまとまりを色分けしている。索引は学習指導要領四つの視点と内容項目ごとに分類して示している。 ○1年生は分かち書き、文節改行、数字のみ漢字を用いルビ付加。カタカナは見開きページ初出にルビ付加。当該学年の配当漢字に全ルビ付加。注釈で解説あり。</p>
<p>総 括</p>	<p>○教材の冒頭で課題を意識するための問い、学習の手引き「考えよう」では3段階構成の問いを提示し、児童が主体的に課題を意識して学習ができるようにしている。また「つなげよう」では学んだことを日常生活に生かすように配慮している。個々の学びが有機的に結びつくよう、内容項目間の関連に考慮した指導内容の配列になっている。年間複数回「学びの記録」で児童が自己の成長を振り返ることができる。また、漫画、大写真、先人や今活躍している人の生き方から学ぶ等の教材がある。</p>

<p>書名 項目</p>	<p>小学道德 生きる力 小学道德 生きる力 道德ノート</p> <p style="text-align: right;">116 日 文</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり</p>	<p>○教材の本冊と別冊「道德ノート」の2分冊で構成されている。</p> <p>○考えを引き出し議論を活発にするために、全教材に発問の流れを提示している。別冊「道德ノート」の記述欄では多面的・多角的な考えをもてるよう設定している。</p> <p>○別冊「道德ノート」を活用することで、児童自ら振り返って成長を実感できるとともに、指導と評価の参考や保護者との連携も図られるようになっている。</p>
<p>特 色</p>	<p>内 容</p> <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <p>○「いじめ防止」は最重要なテーマに位置付け、複数の教材と特設ページ「心のベンチ」を配置した重点的指導「ユニット」として、多面的・多角的な視点から考えられるようにしている。また、学期1回取り扱うようにしている。</p> <p>○「情報モラル」「安全の確保」「社会の持続可能な発展」等学習指導要領で「配慮すべき事項」とした内容は、複数の教材配置やユニット（重点化）にしている。</p> <p><発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫></p> <p>○教材ごとに、児童の豊かな思考や議論を促す学習要素「主題名」「導入発問」「あらすじ」「登場人物」「考えてみよう」「見つめよう 生かそう」を適切に配置し児童の自発的な思考を引き出そうとしている。</p> <p>○別冊「道德ノート」では、書く活動を通して児童が思考を深めることができるようにするとともに、教師の指導や評価にも活かすことができるようにしている。巻末には保護者記入欄を設け、家庭との連携を図ることもできるようにしている。</p> <p><「考え、議論する道德」を通して道德性を育成する工夫></p> <p>○児童が主体的に解決に取り組む問題解決的な学習や体験を活かして学ぶ体験的な学習を取り入れるために、その手法を用いるのに適した教材の後に「学習の手引き」を示し、学びと教師の指導の参考例となるようにしている。</p> <p>○特設ページ「心のベンチ」を適宜配置し、人間関係づくり、ソーシャルスキルなどの体験を通して、自分の考えを広げたり、道徳的価値をより深く、多面的・多角的に考えたりできるよう配慮している。</p> <p>資 料</p> <p>○児童の発達の段階を考慮し、1年間、6年間を通した系統性に配慮するとともに、生活目標や学校行事、他教科の学習内容などとの関係を考慮して教材を配列し、教育活動全体を貫く「要」としての道徳科の特質を活かせるようにしている。</p> <p>○大きな写真、アニメ風のイラストや漫画形式の挿し絵を掲載したり、実在する著名人、漫画のキャラクターから学んだりする教材等もある。</p> <p>表記・表現</p> <p>○教材ごとに学習指導要領の四つの視点をマークで示している。目次は四つの視点を色分けしている。索引は四つの視点と内容項目ごとに分類して示している。</p> <p>○1年生は分かち書き、カタカナにルビを付加。漢字は当該学年の配当漢字までを使用し、当該学年以上の全漢字にルビを付加。難解な語句や必要情報を頭注で解説。</p>
<p>総 括</p>	<p>○教材ごとに児童の思考の流れに沿った発問を提示し、児童の主体的な学びをサポートしている。別冊「道德ノート」では、指導と評価の参考になったり、児童が自分の成長を実感したりするとともに、家庭との連携を図ることもできる。「心のベンチ」や「学習の手引き」では、問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れ自分の考えを広げたり、道徳的価値の理解を深めたりすることができるようにしている。また、アニメ風のイラストや大写真、実在する著名人を題材とする教材等がある。</p>

項目 書名	小学道徳 ゆたかな心 <div style="text-align: right;">208 光文</div>
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ○各教材の冒頭に、主題と導入時の問いを提示し、目的意識をより明確にしている。 ○児童が目的意識をもって主体的に学ぶことができるよう、巻頭のオリエンテーションのページや、各教材下段の思考を促す「投げかけ」が提示されたりしている。 ○各教材の「広げる」および巻末の「学びの足あと」を活用して、学習後の振り返りを行うことで、道徳性を育み、児童自らが成長を実感できるようにしている。
特色	<p style="text-align: center;"><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○いじめを直接的・間接的に児童自身の問題として捉えられるような教材を選定している。また、全学年にコラムを発達の段階に合わせて配置し、学校生活において、児童自らがいじめ防止等に主体的に関わる態度を育めるようにしている。 ○「規則の尊重」等の教材において情報モラルに関わる内容を扱い、情報社会で適正な活動を行うための基となる考え方や態度について考えられるようにしている。 <p style="text-align: center;"><発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーションで児童が常に「問い」をもつことの重要性を示している。各教材では、冒頭に問題意識をもつための問い、本文下段に物事を多面的・多角的に考えさせる問い、末尾にその時間に学習をした内容を振り返る問いを提示している。 ○各学年重点主題を設定し、長期的な見通しのもと、連続的に扱うことでより効果が得られる教材を児童の発達の段階に考慮し、ユニットで配置している。特に「生命の尊さ」については、6年間の見通しをもって取り組めるようにしている。 <p style="text-align: center;"><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○共感や気づき、考えるためのポイントや広げるための見方などをキャラクターを通して「考える」投げかけを提示している。また導入で問題意識をもって学習に臨み、「まとめる」で振り返ることで、自己の考えの変容を実感できるようにしている。 ○オリエンテーションにおいて、話し合い活動についての方法や道徳ノートの例を提示している。各教材の「まとめる」「ひろげる」では話し合いや書く活動、体験活動等を示唆している。「学びの足あと」では学習理解を深められるようにしている。
資料	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が自分のこととして考えやすい内容、人間としての生き方に迫る題材を使っている。スポーツ選手、著名人、先人の伝記を扱った教材や実話を基に考える教材を掲載している。地域教材は、モデル教材として内容の汎用性を高めている。 ○全学年発達の段階に応じ、教材と関連する諺や名言を紹介するコラム、コミュニケーション能力を高めるグループワークを紹介するコラムが掲載されている。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○教材ごとに学習指導要領四つの視点をマークで示している。目次は四つの視点を色分けしている。索引は四つの視点と内容項目ごとに分類して示している。 ○1年生は分かち書き、文節改行、カタカナにルビ、数字のみ漢字を使用しルビを付している。漢字は前学年に習った漢字の使用が基本。難解な語句は脚注で解説あり。
総括	<ul style="list-style-type: none"> ○見通しをもった自主的・主体的な学習のため、巻頭にオリエンテーションを配置し、各教材では「導入」「まとめる」「広げる」を設置し、授業の目的や流れを明確にしている。「問い」を重視し、導入時、展開時、終末時にそれぞれ児童の思考を促す投げかけをしている。巻末の「学びの足あと」では、考えの変容や学びを記述することで、児童一人一人が自らの学習状況を確認する手立ての一つとなっている。また、漫画やアニメ、スポーツ選手や著名人、先人の伝記や実話を扱っている。

項目	書名 <h1 style="text-align: center;">みんなの道徳</h1> <p style="text-align: right;">224 学 研</p>
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	<p>○道徳的諸価値の理解を重視し、内容の明確化、体系化、現代化を図っている。</p> <p>○問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習などを積極的に取り入れ、児童が問題意識をもって多面的・多角的に深く考えることができるようにしている。</p> <p>○巻頭に自分を見つめるページ、巻末に1年間の学びを振り返るページがあり、1冊全体で1年間の自分の成長を感じられる構成になっている。</p>
特色	<p style="text-align: center;"><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <p>○いじめ問題に対応するため「いのちの教育」を全学年、最重点テーマに据え、連続複数時間扱いのユニットとしている。また、発達の段階を重視して2学年ごとに重点テーマ「しっかり生きる」「仲よく生きる」「よりよく生きる」を設定している。</p> <p>○「情報モラル」や現代的な課題への対応については、全学年、教材や「学び方のページ」で、課題を自分との関係において考え、学習できるようにしている。</p> <p style="text-align: center;"><発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫></p> <p>○児童の問題意識を大切にしたい構成・展開になっている。巻頭に道徳授業の学び方を紹介するページと詩、次に自分のことを記述させ、自己を見つめるページがある。また、あえて主題名を本文中に記載せず、主体的な気づきを育むようにしている。</p> <p>○問題解決的な学習が可能な教材を豊富に取り上げ、さらに「学び方のページ」〔深めよう〕（該当ページは横書きで、本文と区別しやすい）で、問題解決的な学習の道筋を提示し自己の生き方についての考えを深める学習ができるようにしている。</p> <p style="text-align: center;"><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <p>○異なる複数の意見を教材に提示して考えさせたり、4種類の「学び方のページ」〔深めよう・つなげよう・やってみよう・広げよう〕で学習を展開したりすることで、多様な学びを創造し、多面的・多角的に自己の生き方について考えることができる。</p> <p>○話し合いや記述などの言語活動を積極的に取り入れ、マークで示している。また、家庭との連携や集団・社会との関わりを重視した教材を積極的に取り入れており、特に家庭との連携では、保護者の記述欄を設け、家型のマークで示している。</p> <p style="text-align: center;">資 料</p> <p>○身近な内容と遠大な内容、実話と創作、詩や写真が中心の展開などの多様な形式の教材を、さまざまな観点からバランスを考えて構成している。また、印象的な絵や写真、漫画形式や学校生活でありそうな場面を挿し絵として掲載している。</p> <p>○児童になじみ深い人物を題材とした伝記やオリンピック・パラリンピックに関連する身近な人や選手、題材を積極的に取り上げている。</p> <p style="text-align: center;">表記・表現</p> <p>○全ての読み物が見開きで始まる。また、学習指導要領4つの視点をマークで示し色分けされている。索引は4つの視点と内容項目ごとに分類して示している。</p> <p>○1年生は分かち書き、文節改行、カタカナと漢字にルビを付している。当該学年以降に配当されている漢字全てにルビを付している。難解な語句は頭注で解説あり。</p>
総括	<p>○「プラス思考」と「未来志向」を備えた児童の育成を目指して編修している。児童が自ら主体的に課題を発見し、解決する資質や能力を培うことを重視し、そのため、あえて主題名を本文中に記載せず、児童の問題意識を大切にしたい構成・展開になっている。また、4種類の「学び方のページ」を展開し、多様な学びを創造することで、「考える道徳」「議論する道徳」の実現を可能にしている。また、漫画や詩、写真、スポーツ選手や著名人、先人等、様々な形式の教材を掲載している。</p>

<p>項目</p>	<p>書名 みんなで考え、話し合う 小学生の道徳 自分を見つめ、考える 道徳ノート</p>	<p>232 廣あかつき</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり</p>	<p>○教材と道徳ノートの2分冊で構成されている。 ○巻頭に道徳授業の学び方を紹介し教材末尾には考えるポイントを示すことで、問題意識をもって取り組み道徳的実践意欲と態度を養うことができるようにしている。 ○道徳ノートに記述したり、記述したことを振り返ったりすることで、児童が自己の成長や課題、目標を見出すことができるようにしている。</p>	
<p>特色</p>	<p>内 容</p>	<p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○全学年にわたり「生命尊重」に重点をおき編修している。また、各学年の重点項目も設定しており、それぞれの項目については教材を最大時間数（年間3時間）を配当、2時間連続で配置し重点的に学べるようにしている。 ○第3学年以降は巻末に現代的な課題に関わる「生命尊重」「ともに生きる社会」「情報モラル」について考えるページを特設している。 <発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫> ○巻頭に道徳の授業の学び方を紹介するページと詩があり、児童が問題意識をもって取り組めるようにしている。本冊では協働的な学習を通して自己の生き方についての考えを深め、別冊では書くことを通して価値の理解を確かなものにしていく。 ○「道徳ノート」は内容項目ごとに構成されている。冒頭で内容項目について解説し、続いてその価値に準じた問いを掲載している。記入内容が全て「心の記録」となり巻末の「心のしおり」を利用して自己評価もできる。教師や家の人の記録欄もある。 <「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○児童が学習の見通しをもって自ら課題意識や問題追求への意欲を高め、主体的に学習に取り組めるよう、教材ごとに「考えよう 話し合おう」を設けている。低学年では2つの問いを、第3学年以降は学習のめあてと問いを掲載している。 ○「学習を広げる」コーナーでは、教材に関係した知識・理解や道徳的価値のさらなる深まりを促す内容（人物や本の紹介、格言等）、アクティブ・ラーニングを促す内容（役割演技、調べ学習等）を掲載している。</p>
	<p>資 料</p>	<p>○先人の伝記やスポーツ界で活躍する人物、様々なジャンルで活躍する著名人等を題材にし、児童に生きる喜びや勇気を与える教材を掲載している。 ○別冊巻末に折り込みとして「心のしおり」が用意されている。学習の自己評価や振り返り、教師や家庭の確認履歴とともに、ノート提出の際、該当ページにはさむ「しおり」の役割をはたしている。</p>
	<p>表記・表現</p>	<p>○教材ごとに学習指導要領の四つの視点を色分けして示している。索引は四つの視点と内容項目ごとに分類して示している。 ○1年生は分かち書き、カタカナと漢字にルビ付加。2年生以上は当該学年の配当漢字を含む未習漢字全てにルビ付加。難解な言葉や必要な情報は脚注で解説あり。</p>
	<p>総 括</p>	<p>○教材と道徳ノートの2分冊で構成されている。教材冒頭に学習のめあてを示し、末尾にある「考えよう話し合おう」によって、学習の道筋を把握したり、学習を広げたりすることができるようにしている。道徳ノートの記入内容が全て児童の心の記録となり、さらに巻末の「心のしおり」を利用して自己評価することで、自分の成長を実感したり、課題や目標を見出したりすることができるようにしている。また、スポーツ選手や偉人の生き方から学ぶ教材があり、人物紹介も掲載している。</p>